

配点: (1) 15 点, (2) 24 点, (3) 24 点, (4-1) 13 点, (4-2) 12 点, (4-3) 12 点

図 1 の ANSI-C 準拠である C 言語のプログラムは, 53 行目の整数型 (int 型) 配列 (array) `dat` で与えられる入力に対して, 昇順 (ascending order) に整列 (sort) するプログラムである. 以下の各問に答えよ.

- (1) このプログラムで実現されている整列方式 (sorting algorithm) の名称を答えよ.
- (2) このプログラムの 4 行目の `display` 関数を, 1 回目呼び出すときと, 3 回目呼び出すときの, 配列 `dat` の内容を記述せよ.
- (3) このプログラムは, 入力を指定する 53 行目の配列 `dat` によって動作が変化する. 49 行目の `sort` 関数の呼び出しにおいて, 常に `k` と `b` が等しくなり, かつ 25 行目の処理が行われないうに, 配列 `dat` を並べ替えよ.
- (4) 49 行目の `sort` 関数の呼び出しにおいて, 常に `k` と `b` が等しくなる配列 `dat` が与えられたときについて, 以下の各小問に答えよ.
  - (4-1) 配列 `dat` の要素数を  $n$  としたとき, プログラム実行の全体における `sort` 関数が呼び出される回数を求めよ.
  - (4-2) このような状況における, このプログラムが示す整列方式の時間計算量 (time complexity) を, 整列要素数  $n$  を用いてオーダー表記 (order notation) で答えよ.
  - (4-3) これは, このプログラムが示す整列方式にとってどのような状況であるか, 時間計算量の観点から簡潔に述べよ.

```

1  #include <stdio.h>
2  #define MAX 8
3
4  void display(int *arr) {
5      int i;
6
7      for(i=0; i<MAX; i++) printf("%d ", arr[i]);
8      printf("\n");
9  }
10
11 int arrange(int a, int b, int *arr) {
12     int left, right, bd, temp;
13
14     left=a; right=b; bd=arr[(a+b)/2];
15
16     while(1) {
17         while(arr[left]<bd) {
18             left++; if(left>b) break;
19         }
20         while(arr[right]>=bd) {
21             right--; if(right<a) break;
22         }
23
24         if(right<a) {
25             arr[(a+b)/2]=arr[a]; arr[a]=bd;
26             return a+1;
27         } else if(left<=right) {
28             temp=arr[left];
29             arr[left]=arr[right]; arr[right]=temp;
30
31             left++; right--;
32         } else {
33             break;
34         }
35     }
36
37     return(left);
38 }
39
40 void sort(int a, int b, int *arr) {
41     int k;
42
43     if(b<=a) return;
44
45     k=arrange(a, b, arr);
46     display(arr);
47
48     sort(a, k-1, arr);
49     sort(k, b, arr);
50 }
51
52 int main(void) {
53     int dat[]={30, 50, 70, 40, 20, 80, 60, 10};
54
55     sort(0, MAX-1, dat);
56     display(dat);
57     return 0;
58 }

```

図-1 プログラム

(1) クイックソート (Quick Sort)

(2) 1回目:  $\{30, 10, 20, 40, 70, 80, 60, 50\}$

3回目:  $\{10, 20, 30, 40, 70, 80, 60, 50\}$

(3)  $\{20, 40, 60, 80, 10, 30, 50, 70\}$

(4) <sup>(4-1)</sup>このとき、sort関数が呼び出される回数は  $n + (n-1) = 2n-1$  回。

(4-2) このような状況における、時間計算量は  $O(n^2)$

(4-3) これは、クイックソート (Quick Sort) にとって最悪の状況である。

ピボット (pivot) は常に区間の最大値となる、分割は極端に不均衡である。